ローマ人への手紙　第 12 章　15 節

「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」

高架橋下を歩いていると、4、5 歳ぐらいの男の子と 6 歳ぐらいの女の子が若づくりのお父さんと歩いている。親子の散歩が目にとまった。お母さんはどうしたのかと思いながら、車道と歩道を分ける低い分岐のコンクリートの上を男の子は歩く。お姉さんは弟の後を歩いている。

歩きながら男の子はお父さんに呼び掛ける。パパ、パパと呼びかけた。先を行くパパは未だ応えない。男の子は言う、パパ、白い飛行機が飛んで行くよ。見えるでしょう、と男の子はパパを誘う。それでもパパは返事をしてくれない。男の子は父親の近くまで駆け寄り、もう一度、パパ、パパ、と呼び掛け飛行機を見るように促す。ようやくパパは応える。ああ飛んでいるね。女の子は何の興味も示さずコンクリートの上を歩いているだけだ。

男の子は空に発見した旅客機を誰かといっしょに見たかったのだ。パパなら見てくれると思ってパパを繰り返し呼んだ。飛行機を空に発見した気持ちをいっしょに感じたかったのだ。ただ、お姉さんは呼ばなかった。他の機会にはお姉さんをも呼ぶことがあるだろう。たとえば、パパに叱られたとき、お姉さんの助けが必要なとき。